復興事業の前線に立つた一人として

東京府土木部
橋梁課長　宮　崎　正　夫

（一）　過去十年間の我が土木技術界に特記すべき出來事は、帝都復興事業と失業救濟事業とであらう。次で來るべきは、當然、經濟復興、產業振興の積極時代である事を信じ、且つ希望する。

この間、各大都市の輪廓機構に顯著な改造が行はれ、都市土木工學の理論設計並に施工の各方面に渉つて、急ピッチの進歩が示されてゐる。更に將來に一歩を進んでは、理論方面では土性の研究、施工方面では電氣鎔接の實際化等を熱望してやまない。

（二）　都市の營養機能を遮けないで、短期間に破壞と建設を爲し遂けた帝都復興事業は又と遭遇出來ぬ比類ない大事業、且つ難事業であつた。その前線に立つた一人として回顧すれば、苦汁と甘杯交々に、めまぐるしくも慌だしい思ひ出に滿腹してゐるから、お答としても消化不良である事をお許し願ひ度い。

所　感

內務技師　江　守　保　平

我國の土木事業も此二三十年著しい發達を示し河川、港灣、上下水道、水力、鐵道、軌道、等は先進諸外國に伍して聊かの遜色を認めないまでに達してゐる。然るに道路――我々の生活に最も密接な關係を持つべき道路のみは實に舊態依然たるもので殆んど文化の恩典に浴してゐないのはどうしたものであらうか。世間が鐵道や軌道などの便利さに餘りに狎れすぎてしまつた結果自動車交通の發達がおくれたためであらう。が然し此數年間世界並みに自動車も殖え道路改良の必要が漸く認められて來た結果市中の街路は勿論國道、府縣道などの改修せられるもの多く自動車は愈々その機能を發揮して實用化の域にまで進んで來た次第である。

現在我國の道路事業に投ぜられてゐる工費は實に年額九千百萬圓に及んでゐる　此の中には國の直轄にて施工中の國道改良事業府縣で主力を注いで居る府縣道、町村で行つてゐる町村道の改良工事等總てを包含したものであるが、此調子で行くと、三四十年の後には主要幹線道路は悉く改修を完了し日本國中至る所自動車で樂に往來することが出來る樣になる筈である。

自動車道路は自動車が樂に往來しうる樣な幅員をもつべきことは論を俟たないが舗裝工事も缺くべからざるものの一つである。從來舗裝と云へば高價なもの贅澤なものの樣に考へられて來たが最近はその工法も色々研究され安く丈夫なものが考案される樣になつて來たのは喜ぶべき傾向である。十年程以前東京邊りで試驗的に行はれた舗裝は面坪七十圓も八十圓もかかつたものであるが現在ではコンクリートなどの中級舗裝が坪七、八圓瀝青質の簡易舗裝になると坪二圓足らずで施工することが出來る。將來も道路技術者の絶えざる努力により舗裝道路が益々普及することを祈つてやまない。（了）